



平成24年5月

松原 淳一

福井の経済 (福井県はなぜ豊かなのか)

拙著「福井の経済」が4月末に発刊となりました。新聞各紙に紹介していただいたこともあって、先週の福井県内ベストセラーズでも6位（紀伊国屋書店福井店調べ）となるなど、多くの方にお読みいただいているようです。

本書の内容については、これまでも各種資料で触れてきましたが、改めてその概要を紹介したいと思います。

福井県には新幹線も飛行場も大きな港もなく、全国的に有名な大企業や輸出企業は少なく、先端産業のウエイトは小さく、繊維・眼鏡・建設など労働集約型の企業が集積している県です。グローバル経済の下で、福井県経済が厳しい事情なら幾らでも指摘できます。

しかしながら、個々の企業は小さく、労働者の一人当たりの賃金も高くありませんが、人口当たりの社長数は全国で最も多く、有効求人倍率や完全失業率などの雇用環境も良好です。世帯全体の実収入は全国トップクラスで、預貯金や生命保険などの金融資産、持ち家や乗用車などの実物資産も多くなっています。さらに、貧困・格差が小さく、事故・犯罪や失業者が少なく、一家総出で勤勉に働き、子供は学力・体力優秀で、お年寄りも健康長寿です。福井県は、豊かで住み良い社会ということになります。因みに、福井県は、経済企画庁が1998年まで公表していた「豊かさ指標」において5年連続日本一でした。最近でも、東洋経済新報社の「住み良さランキング」では、福井県内の自治体は全国上位にランクされ、2011年に公表された法政大学幸福度指数研究会の都道府県別「幸福度」ランキングでも福井県は日本一となっています。

それでは、福井県はなぜ、豊かで住み良い社会なのでしょう。これまでその理由はきちんと説明できていなかったのではないのでしょうか。福井県経済の強みは、家族・企業・地域の「絆」の強さと一家総出で働く「勤勉」を特徴とする支え合いの構造（福井スタイル）にあります。そして福井スタイルの構造、成立の歴史、将来の可能性を分析したのが本書です。

翻って2011年の日本は「東日本大震災」に揺れ「絆」の重みを再認識させられた年でした。2012年は「社会保障と税の一体改革」という財政赤字問題に大揺れです。巨額の国債残高を抱え、少子高齢化が進む日本では、もはや社会保障には頼れない時代が近づいているように思われます。しかし若者の多くは都会に移り住み、絆の薄い都会の夫婦共働きで満足に子供も産めず、少子化と無縁社会をさらに進行させていま

す。

一方福井県では、広い持ち家に住み、家族・企業・地域の「絆」を支えに、一家総出で「勤勉」に働き、多くの子供を優秀に育てています。経済成長にも社会保障にも期待できない時代において、「絆」と「勤勉」という日本人本来の力で、豊かで住み良い社会を維持している福井県は注目されるべきである、というのが本書の主張です。

<経済講演会のご紹介>

福井県立大学地域経済研究所の平成 24 年度第 1 回フォーラムにおいて、本書の内容を紹介させていただくこととなりました。福井県立大学（永平寺町）において、5 月 23 日（水）の午後 1 時 30 分～3 時に開催予定です。お時間がありましたら、ご参加いただければ幸いです。

以 上



2012年3月

松原 淳一

少子高齢化社会における経済優等生

日本経済は、成長力の低下と財政赤字の拡大という問題に直面していますが、その根底には少子高齢化が影響しています。少子化は労働者の減少を通じ経済を停滞させ、高齢化は年金や医療費の増加を通じ財政赤字を拡大させます。

少子高齢化の下で経済成長を維持するには、労働者数を維持しながら生産性を引き上げる必要があります。人口減少社会において労働者数を維持するためには、高齢者や女性が働きやすい環境整備が重要です。生産性の向上には、若者が正規雇用労働者として技能を向上させていける職場が必要です。高齢者や女性が働きやすい環境整備、若者が技能を向上させていく職場の確保はどうすれば良いのか、そのヒントが福井県にあります。

福井県では高齢者や女性の就業率が高く、正規雇用の比率が高く、有効求人倍率が日本で一番高くなっています。さらに、貧困格差が小さく、事件事故が少なく、高齢者は健康長寿で、子供は多くかつ優秀に育っています。経済社会統計でみる限り、福井県は少子高齢化社会における経済優等生です。

なぜ、福井県は優等生なのでしょう。福井県の経済構造をみてみましょう。福井県には新幹線も飛行場も大きな港もなく、全国的に有名な大企業や輸出企業は少なく、先端産業のウエイトは小さく、繊維・眼鏡・建設など労働集約型の中小企業が集積している県です。福井県のどこに強さの秘密があるのか。その答えは、家族・企業・地域の「絆」の強さと一家総出で働く「勤勉」しか思い当たらないのですが、「絆」と「勤勉」さえしっかりしていれば、豊かで住み良い社会は維持できるということなのかも知れません。

多くの若者が絆の薄い都会に移り住み、夫婦共働きで満足に子供も産めず、日本の少子化と無縁社会がさらに進行しています。一方、福井では「絆」と「勤勉」により、豊かで住み良い経済社会を維持しています。少子高齢化問題を考える上で、福井の経済社会構造が注目されています。

以上

(参考) 福井の経済社会構造にご興味のある方は、「福井の経済」(晃洋書房、松原著、4月中旬発刊予定)も参考にしてください。



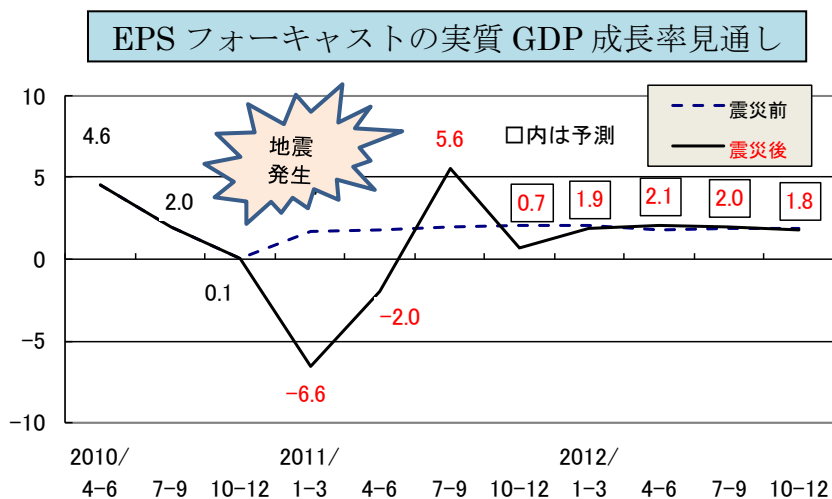
2012年1月
松原 淳一

2012年の景気

2012年の日本経済は、2%程度の成長が予想されていますが、欧州ソブリン問題に振り回される年になりそうです。

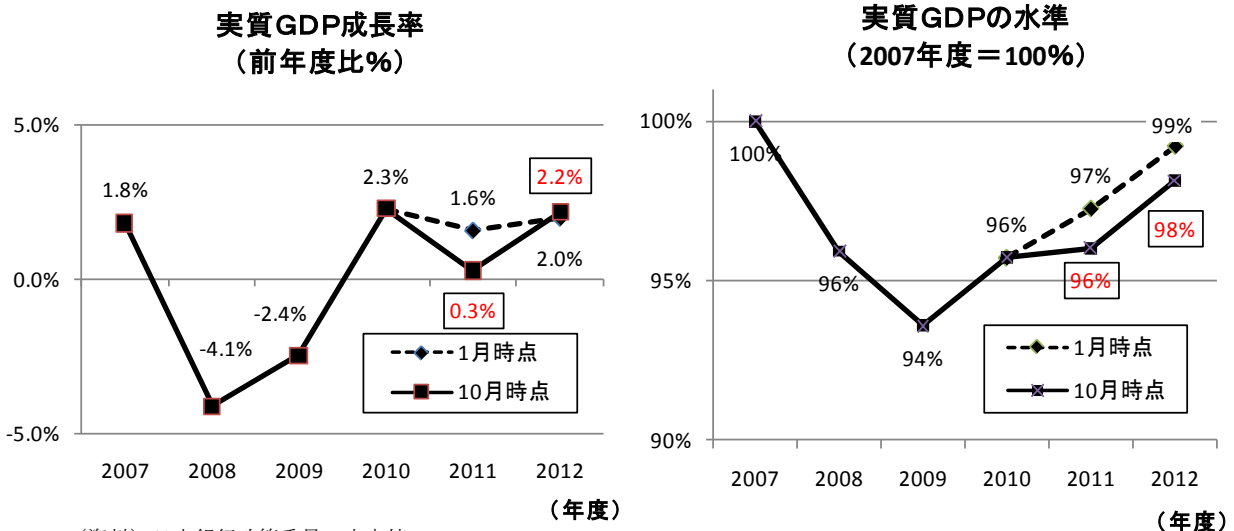
1. 2012年度の予想成長率

2012年度の実質GDP成長率については、経済企画協会のEPSフォーキャストが前年度比+2.0%、内閣府と日本銀行（政策委員の中央値）が同+2.2%と予想しています。（2011年12月時点）



（資料）経済企画協会（2011年12月）、国民経済計算

日本銀行政策委員の成長率見通し（中央値）



2. 今年の景気を左右する3大要因

今年の景気は震災復興需要が下支えとなりながら、アジア経済とともに成長することが期待されますが、欧州ソブリン問題が大きな攪乱要因です。

(1) 短期「震災復興」

東日本大震災の復興復旧需要が日本の景気を下支えします。

東日本大震災により分断されたサプライチェーンの復旧が進み、夏場以降、生産が回復しています。そして、復興復旧需要が本格化しつつあります。

今回の大震災・津波により被災地では34万戸の住宅が全壊・半壊し、24万台の車が流されました。被害総額は約17兆円（内閣推計）に達しますが、第3次補正予算までの震災復興費用の合計は20兆円近くに達しています。震災によるマイナスの影響が解消に向かい、復興復旧需要が本格化しつつあります。

福井県内企業の売上動向をみると、建設資材、作業服、木工製品などが増加しています。被災地の復旧復興需要が県内企業にも及びつつあります。

(2) 中期「欧州ソブリン問題」

欧州ソブリン問題が今年の最大の波乱要因です。

リーマンショック後の不況に対応すべく、多くの国で財政支出が拡大し、赤字国債が累増しました。米国ではティーパーティーを中心とした共和党の主張により、今年の夏には国の債務上限引き上げに関する国会承認が期限ぎりぎりまで紛糾し、今後の財政支出に厳しい制約が課せられました。

欧州では、ギリシャ問題を皮切りに欧州ソブリン問題が深刻化しています。ユーロ加盟国では財政赤字をGDPの3%以内に収めるルールとなっていますが、多くの国がこのルールをオーバーしているため、財政支出の削減に向けた動きが本格化しています。そのことが欧州の景気を悪化させています。さらに、国債価格の下落により自己資本比率が低下した金融機関は融資に慎重となり、株価の下落は消費者マインドや企業マインドの後退をもたらしています。

仮に、ユーロシステムの根幹が揺らぐと、来年の世界経済は波乱展開となります。例えば、ユーロが崩壊した場合、国自体が崩壊するわけではありませんが、ユーロ加盟国の国債は現在ユーロ通貨建てで発行されていますので、崩壊するとその価値はどうなるのか、あるいはユーロ建ての輸出入契約はどうなるのか、などの混乱が生じます。

一方、ユーロシステムの結束に向けて、さらなる統合が進みユーロシステムの信認が回復すれば、景気の回復、外国為替の円安、株式市場の上昇などが期待され、明るい展望が開けることとなります。良くも悪くも来年の景気はユーロ次第といっても過言ではないでしょう。

(3) 長期「アジアの時代」

長期的には日本の最大の貿易先である中国を中心とするアジア景気が重要です。特に、福井県は中国との関係が深くなっています。

中国では、ベルリンの壁崩壊（1989年）、鄧小平の南巡講話（1992年）以降、改革・解放路線により、「世界の工場」として発展してきました。福井県の繊維や眼鏡など労働集約型製造業では、中国からの低価格商品の大量流入により生産縮小に追い込まれてきました。

しかしながら中国では、経済成長と一人っ子政策により、低賃金の労働者が減少し賃金が高騰しています。わが国製造業は、円高による競争力低下が懸念されていますが、中国の最低賃金はそれ以上のペースで上昇していますので、日中の賃金格差はむしろ縮小傾向にあります。

こうした中国での人件費高騰や人手不足の深刻化から、繊維や眼鏡などの労働集約型製造業では、高級品を中心に中国から県内企業に生産が回帰しており、福井県の有効求人倍率は全国で最も高くなっています。

労働集約型製造業のウエイトが高い福井県経済は、ベルリンの壁崩壊以降の逆風から風向きが変わりつつあります。この風向き変化を捉え、どのような経営戦略を打ち出していくかが福井県企業の課題と言えるでしょう。

以 上

福

2011年11月

松原 淳一

福井県はなぜ、幸福度日本一なのか

法政大学大学院の幸福度指数研究会が2011年11月に公表した都道府県別「幸福度」ランキングで福井県が1位となりました。「福井県民は幸福」ですと言われても、幸福は主観の問題ですので実感するのが難しいですが、福井県が豊かさで住み良い県であるということは、これまでも各種機関から指摘されてきました。

経済企画庁の豊かさ指標は1998年に廃止されましたが、廃止直前の5年間、福井県は日本一でした。毎年公表されている東洋経済新報社の住み良さランキング2010年でも全国787都市中、坂井市12位、福井市14位、敦賀市23位など全国トップクラスにあります。福井県が豊かで住みよい県と言う評価は定着しているようです。

もともと、福井県民がなぜ幸福なのか、なぜ豊かで住みよいのか、その理由は明確になっていないように思われます。そこで、福井県の豊かや住み良さの背景について、経済的な面から特徴を整理して見ました。

福井県の経済指標をみると、全国下位クラスの指標とトップクラスの指標が入り混じっています。下位クラスの指標としては、大企業は少なく、世帯主の収入は高くありません。一方、トップクラスの指標としては、人口当たりの社長排出数や事業所数、有効求人倍率、世帯単位でみた実収入・預貯金・生命保険・持ち家・乗用車などが挙げられます。福井県は、個々の企業や労働者の指標は下位クラスですが、世帯単位や地域の指標はトップクラスです。

経済指標でみる福井県

	項目	単位	福井県	全国順位	全国
企業指標	社長排出数（出身地別人口10万人当たり）<2010年>	人	1,752	1位	883
	事業所数（人口1万人当たり）<2009年>	所	591.6	1位	471.4
	大企業の割合<2011年>	%	0.61	45位	1.19
雇用指標	有効求人倍率<2011年9月>	倍	1.09	1位	0.67
	完全失業率（モデル推計値）<2010年>	%	3.3	2位	5.1
	夫婦共働き世帯比率<2005年>	%	58.2	1位	44.4
家計の収入	世帯全体の実収入（勤労者1世帯当り1か月間）<2010年>	千円	634.6	1位	520.7
	うち世帯主の収入（勤労者1世帯当り1か月間）<2010年>	千円	414.5	26位	417.3

家計の 資産	預貯金現在高（全世帯1世帯当たり）<2009年>	千円	10,864	7位	9,367
	生命保険現在高（全世帯1世帯当たり）<2009年>	千円	4,490	1位	3,552
	持ち家比率（対居住世帯あり住宅数）<2008年>	%	77.4	3位	61.1
	自動車所有台数（二人以上の世帯当たり）<2009年>	台	2.04	2位	1.41

（出所）福井県「平成23年度版 一目でわかる福井のすがた」をベースに一部の計数をリバイス。大企業の割合は帝国データバンク

個々の企業や労働者の指標が下位にも拘わらず、世帯単位や地域の指標が全国トップクラスになるのはなぜでしょう。

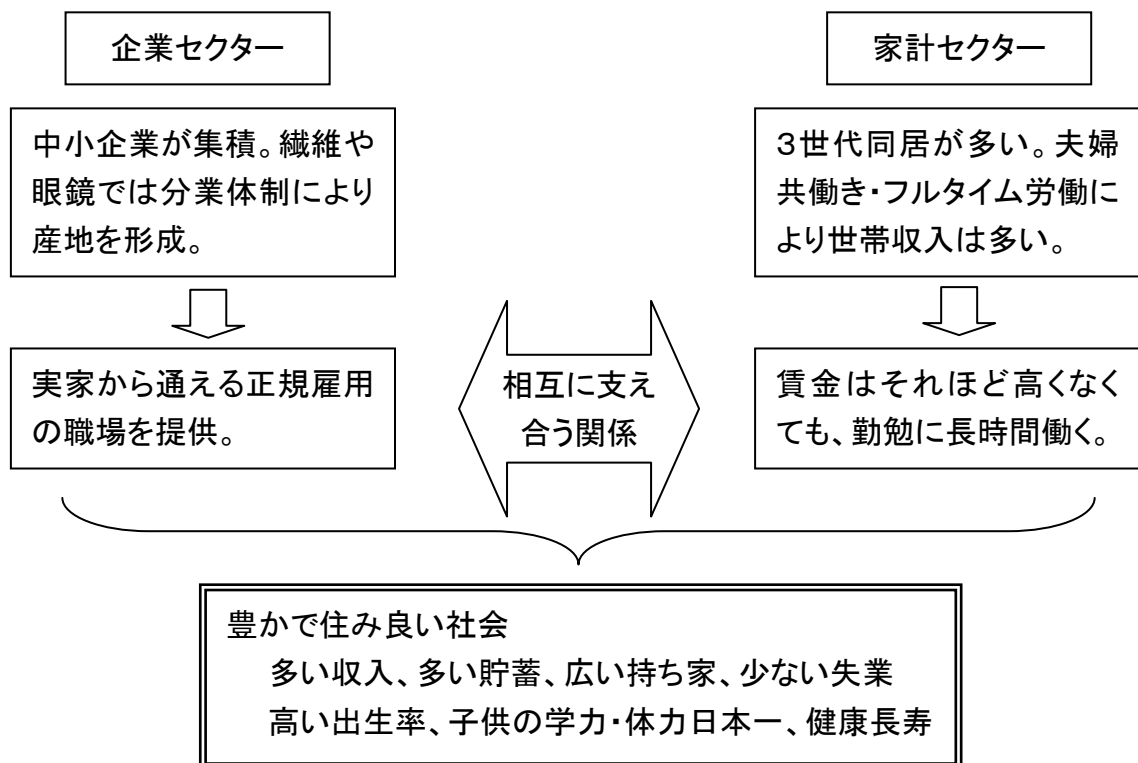
家計をみると、世帯主の賃金は全国平均をやや下回りますが、3世代同居や親の近隣に住み、祖父母に子供と田圃の世話を頼み、夫婦共働きのフルタイム勤務で働くため、世帯単位では高収入を得ています。家族は支え合いながら、一家総出で働くことで経済的な豊かさを得ています。

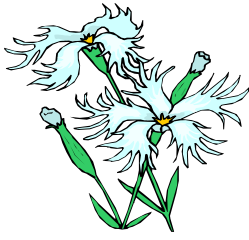
企業をみると、繊維・眼鏡・建設などの中小企業が集積しています。繊維や眼鏡の業界では、中小企業が分業体制により支え合いながら産地を形成しています。

家計と企業の間をみると、地元企業の賃金はそれほど高くないものの転勤の少ない職場を家計に提供し、家計はフルタイムの夫婦共働きにより勤勉な労働力を企業に提供することで、相互に支え合う関係にあります。

個々の企業は小さく、労働者一人当たりの賃金も高くありませんが、家族の絆、企業の連携、企業と家計の支え合いにより、豊かで住み良い社会を構築するのが「福井スタイル」です。

福井県の支え合いの構造





2011年10月

松原 淳一

福井県経済と「なでしこジャパン」

福井県に「なでしこの花」は多くないが、福井県経済と「なでしこジャパン」は共通点が多い。福井県の女性は「なでしこ」的であり、福井県経済は「なでしこ経営戦術」で頑張り、福井県民は「なでしこジャパン」と同じく一番になるのが好きである。

1. 福井県の女性は「なでしこ」的である

福井県の女性は、夫婦共働き比率日本一が示すように働き者で、福井県経済を支えている。かつ多くの子供を産み、学力・体力日本一に育てる。一方、管理職にはなりたがらず、人前に出ることを遠慮するとも言われる。福井県の女性は、働き者で控えめな「なでしこ」である。

2. 福井県企業の経営方針は「なでしこジャパン」戦術である

「なでしこジャパン」はドイツやアメリカに体格やスピードで劣るにも拘わらず、技術・チームワーク・諦めない精神力で勝利したと言われている。

一方、福井県企業は中小企業が多く体格は小さい。福井県企業は先端産業、ファッション産業のウエイトが小さいなどスピード感に劣る。しかしながら、技術力を有する中小企業が多い。労使一体のチームワークでグローバル競争に立ち向かう。福井県は日本で最も企業数が多いが、起業率が高いのではなく廃業率が低い、逆境でも諦めない精神力で頑張る企業が多いのである。福井県企業の経営方針は、「なでしこジャパン」戦術である。

3. 「なでしこジャパン」と同じく、福井県は日本一が好きである

「なでしこジャパン」はワールドカップで世界一になったが、福井県は、子供の学力・体力日本一、有効求人倍率日本一、夫婦共働き比率日本一、社長数日本一、元気なお年寄り比率日本一など、多くの日本一を誇っている。「なでしこジャパン」と同様、一番が好きである。

福井県経済は、「なでしこ（女性）」の力と、「なでしこ経営戦術」により、「なでしこ」と同様、日本一になる。

以上